

むかしの高松

’01/3
第14号

むねたかぼうじろいせき 宗高坊城遺跡

高松市林町

埋もれた川跡からたくさんの土器が！！（高松平野の埋没河川と遺跡）

宗高坊城遺跡は高松平野のほぼ中央部に位置しています。これまで高松東道路周辺で行われた発掘調査が随時、紹介されてきましたが、今回はその東道路と空港跡地、香川インテリジェント・パークを南北に結ぶ都市計画道路福岡三谷線の南工区内で見つかった遺跡を紹介します。

この遺跡の周辺部では弥生時代後期の周溝墓やいくつかの集落遺跡が見つかっており、今回の調査でも川跡からほぼ同時代と考えられる大量の土器などが出土しています。調査は平成11年度の春～秋にかけて行われ、現在は出土した土器などの整理作業を行っている途中です。それでは、調査状況とその関連事項についてご紹介します。



遺跡位置図

「国土地理院発行の2万5千分1地形図(高松南部)の一部を掲載」

確認された主な遺構・遺物

- 縄文時代 [約1万3千年前～B.C.4世紀頃]
調査範囲の大半を占める川跡の最深部から縄文時代晩期 (B.C.1000～B.C.300) 頃と考えられる土器片が見つっています。
- 弥生時代 [B.C.3世紀頃～A.D.3世紀頃]
埋没しかかった川跡から弥生時代後期 (A.D.100～A.D.300) 頃の土器、木製品などの遺物が大量に見つっています。
- 古代・中世 [A.D.7世紀～A.D.16世紀後葉]
現在の土地区画方向に合致した溝跡や井戸跡が見つっています。
- 近世以降 [A.D.16世紀後葉～]
掘立柱建物跡や出水、溝跡等が見つっています。

大解剖！！ 宗高坊城遺跡（南部）

遺跡の南部では、掘立柱建物跡、溝跡、井戸、土坑（穴）が確認されています。南部の微高地（網かけのない箇所）には用水路や建物跡等が見られますが、遺跡の大部分（網かけの濃い箇所と薄い箇所）を川跡が占めています。この川は時代を経て次第に埋没していったことが調査結果から窺え、川の中から見つかった最も古い遺物は、縄文時代の終り頃の土器片でこの頃より埋没が始まったと考えられます。つづいて遺物が多く出土した弥生時代の終り頃には、川幅もかなり小さくなり（網かけの濃い箇所）、普段の水量は少なかったものと推定されます。しかし調査範囲の北西部では砂や礫の混じった堆積物から大量の土器や木片が出土していることから、洪水により近辺の集落が被害にあった状況も推察されます。川が埋まった古代・中世以降の時期については、建物跡等の遺構が見られないことから流域だった箇所は、おおよそ耕作地や荒地だったと考えられます。

宗高坊城遺跡（南部）図面



川の南側微高地には、灌漑用の水路と考えられる溝跡がいくつか見られました。



2×4間の近世頃の建物跡です。近辺に井戸跡や土坑があり、この周囲は居住区だったようです。



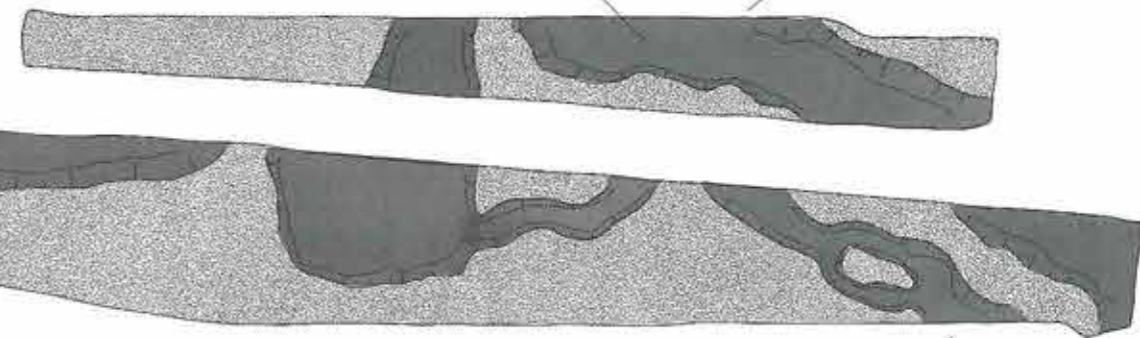
この流路の北側では砂や礫等に混じって、壺・甕高坏・鉢等の弥生土器が大量に出土しました。



左の弥生土器に混じり木片が見られ、中には農耕具等として加工されたものもあります。

I 工区

II 工区



凡例
微高地
低地
流路



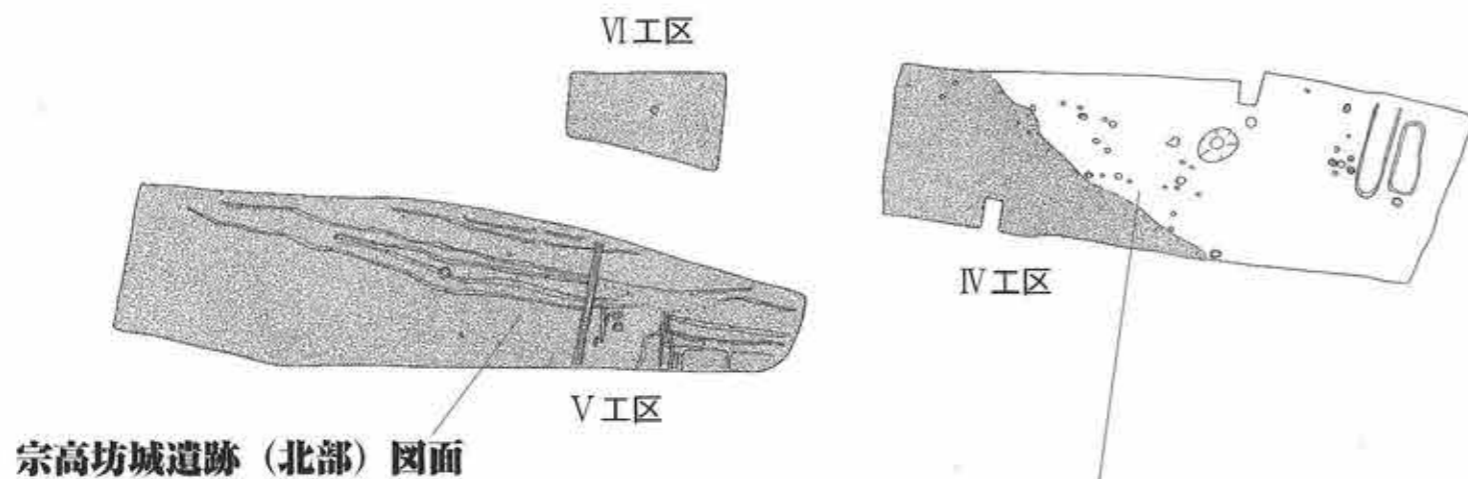
南岸の土坑から大型の弥生土器が出土しました。弥生人の墓であった可能性があります。



弥生時代の終り頃、通常の川の水流は多くなかったようです。

大解剖！！ 宗高坊城遺跡（北部）

遺跡の北部では、溝跡、井戸、出水、柱穴、土坑（穴）が確認されています。南区で確認された弥生土器の出土した流路は調査範囲の東外側となり、調査範囲の南部（薄い網かけの箇所）は普段、水流のない湿地のような土地になっていたようです。さらに後世になるとⅤ工区で、現在の地割方向に近い古代～中世の溝跡が見られることから、この時期には川は埋まってしまっていたようです。近世頃では、微高地となっていたⅣ工区の北半に多くの柱穴や土坑、井戸が確認されており当時の居住地であったと考えられます。また同じ頃、Ⅶ工区では柱穴跡等が見られず耕作痕のみが確認されていることから、主に耕作地として利用されていたと考えられます。その他、Ⅶ工区の中央部では石積みされた出水や暗渠等の灌漑施設が確認されています。本遺跡内でも井戸跡が多く見られる等、埋没した河川の水脈を利用した施設が多いのも特徴です。



川が完全に埋没した古代以降では、現在の土地区画に近い方向を示した溝跡が見られます。



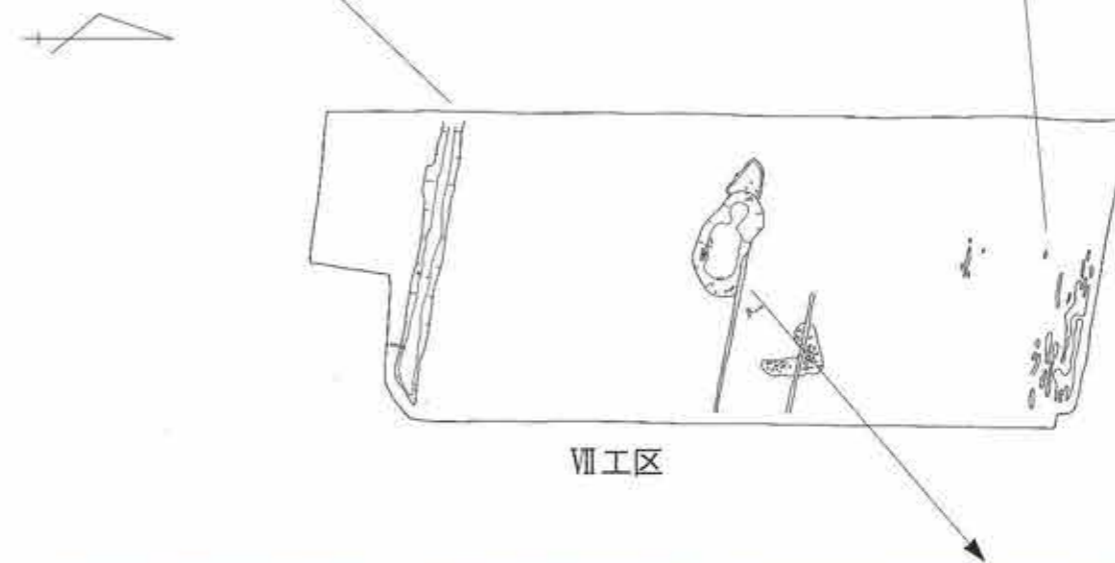
柱穴や土坑が多数見られる他、井戸が設けられており、近世頃には居住地になっていたようです。



ほぼ東西方向の坪界線上に位置する溝跡です。しっかりとした造りで側壁には護岸のためと考えられる杭が見られました。近世頃に破棄、埋没したと考えられます。



鋤溝と考えられる耕作痕です。Ⅶ工区周辺は、主に耕作地として利用されたようです。



凡例
微高地
低地



近世頃に使われていた石積みされた井戸の跡です。現在でも水が湧き出ていました。



近世頃の石積みされた出水跡です。東方向に灌漑用水路が取り付けられています。

高松平野の埋没河川と遺跡

宗高坊城遺跡は埋没していた川の流域に位置しています。そのうち弥生時代に属するものは、洪水により流されたものと考えられる遺物や、灌漑用水路等の遺構が見つかります。そこで遺跡と川の関係について少し考えてみることにしました。

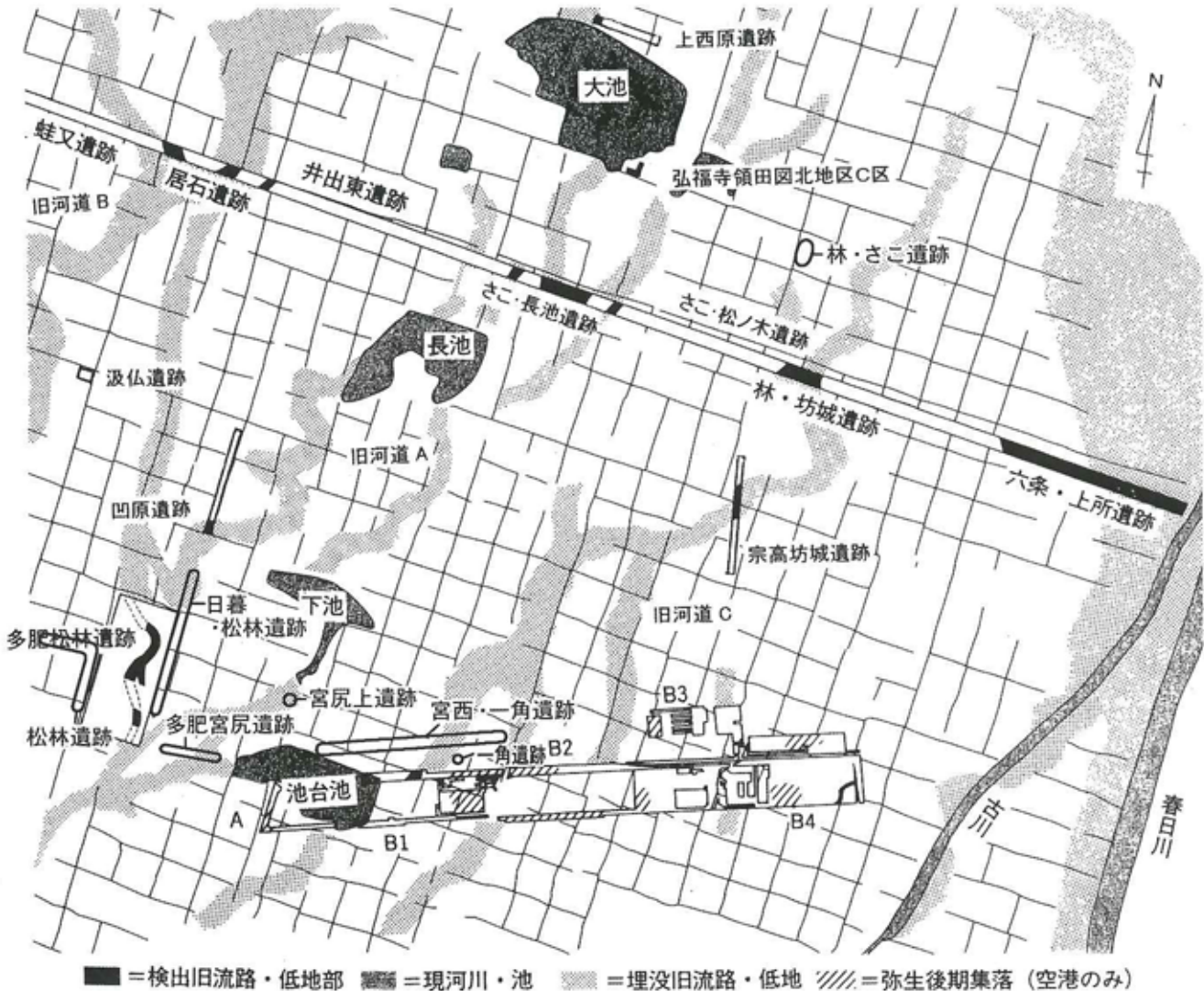


図1 高松平野中央部の埋没旧流路・低地部

現在の高松平野では整地されたほぼ平坦な土地が広がっていますが、弥生時代には川や微高地が織りなす凹凸がいたるところにあったと考えられています。上の図は現在でも僅かに残る地表の高低差や土地区画の乱れから当時の川跡を推定したものに、発掘調査された遺跡の位置を重ねあわせたものです。蛇行して北に向かう川跡が幾本にも分岐しており、その周辺部に遺跡が分布して見られます。当時はこの川から農耕や生活に使う水を得たものと考えられ、多くの遺跡では川跡近辺で多数の溝跡が見られます。人々は川が作り出した低地に水田を、微高地に居住地を設け、そして灌漑網を巡らし川の恩恵を受けてきたのです。しかし宗高坊城遺跡で大量の土器や木製品が砂礫に混って見られたように洪水の害をたびたび被っていたようです。実際、調査された遺跡のいくつかでは水田等が洪水による堆積物で覆われて見つかります。表1でも示されるように、弥生時代前期以降途絶えるもの、あるいは中期で空白となり前期から後期に継続しないものがあることなどから、弥生時代前期末頃に人々の生活基盤を奪うほどの洪水があったとも考えられています。

表1 高松平野（中央部）の弥生遺跡一覧表

[◎が集落、○は遺構・遺物を確認しているもの]

遺跡名	時期						備考 遺構・遺物など
	弥生時代 前期	弥生時代 中期 前葉	弥生時代 中期 中葉	弥生時代 中期 後葉	弥生時代 後期	弥生時代 後期～ 古墳時代	
上西原遺跡	○						大畦畔，小区画水田
居石遺跡	○				○		小型仿製鏡
井出東遺跡	○		○			○	木製品
さこ・長池遺跡	○	◎	◎	○		○	小区画水田
さこ・松ノ木遺跡	○	○	○	○		○	
林・坊城遺跡	○				○	○	円形周溝墓，木製農具
六条・上所遺跡						◎	
林・さこ遺跡					○		
汲仏遺跡	◎				○	◎	環濠
凹原遺跡	○		◎			◎	
松林遺跡	○		◎		○		噴礫
多肥松林遺跡			◎	◎		◎	鳥形木製品
日暮・松林遺跡			◎	◎		◎	
多肥宮尻遺跡	○	○	○	○	○		
宮尻上遺跡	○						
宮西・一角遺跡	○	○			○		
一角遺跡	○					◎	
宗高坊城遺跡						○	
空港跡地遺跡	○	○	○	○	◎	◎	周溝墓



水田跡（上西原遺跡－弥生時代前期－）



集落跡（日暮・松林遺跡－弥生時代後期－）

* 図1は、蔵本（1997）「空港跡地遺跡周辺の埋没旧流路・低地部」香川県教育委員会を一部加筆，改変したものです

発掘調査現場速報

～平成12年度の調査から～

平成12年度夏に由良南原遺跡（高松市由良町）の発掘調査が行われました。この遺跡では、2棟の総柱建物跡を含む掘立柱建物跡4棟、溝跡20条以上、井戸2基、土坑9基が確認されています。

また14～15世紀と考えられる瓦が多く出土していることからお堂を一角に有する中世集落と考えられ、西に望む由良山の城跡との関連が注目されます。



由良南原遺跡位置図

「国土地理院発行の2万5千分1地形図(高松南部)の一部を掲載」



発掘調査現場（全景）

むかしの高松 第14号

2001.3.30

編集・発行 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号

TEL.087-839-2636

印刷 (株)中央印刷